

2021 年度 友愛労働歴史館事業報告

友愛会系労働運動の歴史資料館として 2012 年 8 月に新装オープンした友愛労働歴史館は、「先達者のメッセージを読み解き、再発信する」ことをスローガンに①展示会・講演会の活動、②資料の収集・管理、調査・研究の活動、③情報発信・PR の活動などに取り組んできた。

2021 年は新型コロナウイルス対応による日本労働会館の業務見直しに伴い、歴史館の縮小・移転に取り組んだ。7 月 6 日からリニューアル工事に入り、展示室や書庫の縮小・移転、研修室の廃止、所蔵資料の見直しなどを行った。9 月 14 日に展示会活動を再開し、常設展「日本労働運動の 100 年余」をオープンした。2021 年度（2021. 4. 1～2022. 03. 31）の事業活動は次の通り。

I 展示会活動について

1. 展示会（企画展・常設展）活動

友愛労働歴史館は 2012 年のオープン時、開館記念特別展「友愛会から連合へー日本労働運動の 100 年」を開催。その後、年 2 回の企画展と常設展「日本労働運動の 100 年余ー友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」を開催してきた。

2021 年には戦前の友愛会・総同盟の代表的な活動家であり、戦後は政治家として活躍した西尾末廣を取り上げ、企画展「鬣（たてがみ）を持つ男・西尾末廣ー労働運動・政治運動に生きた生涯ー」を開催した。なお、関西会場はコロナ禍で来年度に延期することになった。

常設展「日本労働運動の 100 年余ー友愛会・総同盟を中心とするー」（2013. 03. 18～）は、オープン以来の同一テーマ（友愛会から連合までの民主的労働運動の 100 年余を顕彰する）で開催し、適宜、展示・解説内容の手直しを行ってきた。

2021 年 4 月 12 名、5 月 4 名、6 月 33 名の来館があった。

7 月 6 日から友愛労働歴史館は休館し、リニューアル工事に入った。工事期間中も可能な限り資料閲覧者、相談者などへの対応を行い、7 月に 29 名、8 月に 13 名が来館した。工事が終了し、資料整理を終えた 9 月 14 日、常設展「日本労働運動の 100 年余ー友愛会・総同盟を中心とするー」をリニューアルオープンした。新型コロナ禍であり、団体見学は無かったが 9 月に 12 名、10 月に 21 名の個人見学者が来館した。その後、団体見学も含めて 11 月 34 名、12 月 75 名、1 月 18 名、2 月 29 名、3 月 25 名の来館があった。2021 年度（2021 年 4 月～2022 年 3 月）来館者は、305 名となり、新型コロナに関わる規制緩和とともに団体見学も回復傾向で、来館者は増加している。

2012 年 8 月 1 日の新装オープン以来の延べ入館者数（名）は、10658 名（2022 年 3 月末日現在）となった。

2. 講演会活動

友愛労働歴史館は展示会と連動させた講演会・労働講座を単独で、もしくは労使関係研究協会や友愛会創立を記念する会と共催してきた。しかし、2021 年は新型コロナウイルス対応のため講演会開催を見送った。また毎年、8 月 1 日に開催している「友愛会創立を記念する会（高木剛会長）」は、規模を縮小し参加者を絞って「友愛会創立を記念する集い」として開催された。当歴史館が担当していた記念講演会は中止された。

II 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は年間を通し、資料の収集・管理に取り組んでいる。また、必要な調査・研究活動に取り組んでいる。

1. 資料の収集・管理

友愛労働歴史館は連合資料室、社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）と連携し、①友愛会から総同盟・同盟までの民主的労働運動、②社会民衆党から社会党・民社党までの民主的社会主義運動、③福澤諭吉や安部磯雄らユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）ゆかりの社会運動に関する資料の収集・管理に取り組んでいる。

2021年度は、公益財団法人教育文化協会、旧同盟OB、旧鉄労OBらから労働運動、社会運動関連資料の寄贈を受けた。また、書籍など資料のリユースを行う労働資料協に加盟し、各種資料や情報の入手に取り組んでいる。2021年度（第36回）社会・労働関係資料センター連絡協議会定期総会と研修会が、11月9日にWEB会議方式で開かれた。

友愛労働歴史館には今まで個人・団体から寄贈を受けた資料が未整理状態にあり、当館倉庫（友愛会館地下1・2階）に保存している。年間を通し、これらの資料の整理作業に取り組んでいる。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の2つを設置しているが、新型コロナウイルスへの対応のため2021年度は、両常設委員会を開催することはなかった。

また、特別委員会として井堀繁雄研究会を設置しており、梅澤昇平調査研究員を主査とし井堀繁雄（労働運動家・協同組合活動家・政治家・日本労働会館理事長・全金同盟組合長）に関する調査・研究を行ってきた。井堀繁雄が残した手帳・日誌のデジタル化作業や評伝『井堀繁雄—労働運動・協同組合運動に生きた男—』（仮題）の制作に取り組んでいる。

さらに友愛労働歴史館は2020年12月に調査研究員会議を仮発足させた。これは各種資料・情報の収集、調査・研究などを目的としたもの。しかし、新型コロナウイルスのため会議を開催することができず、仮発足となった。その後、2021年7月15日に発会式を兼ねた調査研究員会議を開催し、活動をスタートさせた。当歴史館は調査研究員に対し資料の閲覧・貸し出し、無料コピー、資料閲覧室の自由利用、その他の便宜を図っている。2022年02月17日に調査研究員会議を開催し、①日本労働会館・三田会館の現状②友愛労働歴史館2021年の活動③歴史館の役員・調査研究員について報告し、新たな調査研究員の選任として、間宮友紀雄（元友愛労働歴史館副館長）氏を確認した。なお、間宮氏は非専従ながら友愛労働歴史館副館長を継続することとなった。現在の調査研究員（10名）は以下の通り。

石原康則（富士社会教育センター評議員）、稲川和男（映像教育研究会・コンサルタント）、梅澤昇平（尚美学園大学名誉教授）、窪田哲夫（富士社会教育センター監事）、佐藤正行（社会運動家）、高島怜一（著述業、出版社経営）、寺井融（アジア母子福祉協会監事）、村田明（中小企業労働福祉協会理事長）、柳澤信一郎（NPO法人事務局長）、間宮友紀雄（友愛労働歴史館副館長）。

III 情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館は情報発信・PR活動として、インターネットを活用した情報発信・PR活動の取り組みを行っている。

① メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信

友愛労働歴史館の情報提供のため月1回程度、メールレポート「友愛労働歴史館たより」をメールアドレス登録者約1301名に発信している。2021年4月以降はメールレポート第165号(4月19日)、同166号(7月6日)、同167号(8月9日)、同168号(9月28日)、同169号(10月14日)、同170号(11月15日)、同171号(12月20日)、同172号(1月20日)、同173号(2月24日)、同174号(3月29日)を発信した。

② ホームページHPでの情報提供・PR活動

友愛労働歴史館当館ホームページHPを適宜、更新している。4月～10月の当館HPは7月5日に「企画展「鬘(たてがみ)を持つ男・西尾末廣」、8月1日に「友愛会創立を記念する集いを開催」、10月7日に「友愛労働歴史館が月刊『連合』10月号(渋沢栄一特集号)に登場しました!」などを掲載した。友愛労働歴史館ホームページ <http://www.yuairodorekishikan.com>

③ ツイッター (@yuairekishi1912) の活用によるPR活動



友愛労働歴史館はツイッターによる情報発信・PR活動を行っている。左に友愛労働歴史館の公式ホームページHPとEメール、ツイッターのQRコードを掲載する。左から友愛労働歴史館HPのQRコード、同メールアドレスのQRコード(中央)、そして同ツイッター(右)のQRコードである。

IVその他

①友愛労働歴史館が連合機関誌月刊『連合』2021年10月号(渋沢栄一特集号)に登場した。特集は「渋沢栄一×労働組合」で、当歴史館が取材に協力した。

②友愛労働歴史館は所蔵する資料を活用し、民主的労働運動や民主社会主義運動、ユニテリアンゆかりの社会運動に関する研究者・学生の調査・研究に協力している。また、これら資料の閲覧者へ便宜を図っている。そのため書庫横に「資料閲覧室」を設置し、閲覧コーナー(定員3名。スキャナー完備)と会議室(会議形式8名)を設けた。これらは当館調査研究員の利用も想定している。

以上